

<別紙 2>

公益財団法人NEC C&C財団の活動概要

NEC C&C財団は、C&C技術分野、即ち情報処理技術、通信技術、電子デバイス技術およびこれらの融合する技術分野における開拓又は研究に対する奨励および助成活動を通じて、世界のエレクトロニクス産業の一層の発展を図り、経済社会の進展と社会生活の向上に寄与することを目的として、1985年(昭和60年)3月に設立された財団法人であり、その基金はNECからの寄付金に依っています。

この目的を果たすための活動として、現在、顕彰事業および研究助成事業を行っています。

まず、顕彰事業としては、C&C分野の開拓・研究、あるいはこの分野の社会科学的な研究活動に関し顕著な貢献のあった方に対して、C&C賞を贈呈します。顕彰は原則として毎年1回2件以内(1件3名以内)とし、候補者は国内外から広く推薦を頂いております。各受賞者には、賞状、賞牌、賞金(1件当たり1千万円)が贈呈されます。今回を含め28年間に57グループ、92名が受賞し、内訳は、外国の方53名、日本の方が39名となっています。また、本財団の国際会議論文発表者助成を受けて海外で発表された論文の中から毎年1件の優秀論文に対して賞金(1件当たり20万円)を贈呈します。

次に、研究助成事業として、現在次の2つを行っています。

第一は、日本在住の研究者で、海外で開催される国際会議に論文を発表される方々への会議参加費用の助成であり、昨年度までに2,037名の方々に会議参加費を助成しました。

第二は、日本滞在の外国人研究員に対する助成であり、昨年度までに中国、韓国などの計166名の方々に研究調査費を助成しました。

なお、本財団は公益法人制度改革により内閣総理大臣より「公益財団法人」の移行認定を受けたことに伴い、2010年12月1日付にて、名称を「公益財団法人NEC C&C財団」へと変更しました。

以上